

資料3

FEEL NAGANO,
BE NATURAL

この街で、わたしらしく生きる。長野市

長野市まちづくり研究会

意見交換用資料

<現状と課題>

1 研究会の目的

長野市の中心市街地においては、人口減少や低未利用地の増加、外国人観光客への対応などで多くの課題を抱えている。一方、まちなかの回遊性の向上や地域資源を活用した賑わいの創出等が求められている。これを時代の転換期と捉え、従来どおりの考え方、手法では限界があるため、民間企業等の外部の知見を活かしながら、長野駅を中心とした未来のまちづくりについて研究するもの

2 研究テーマ 「県都・長野市に人が集う魅力あるまちづくりについて」

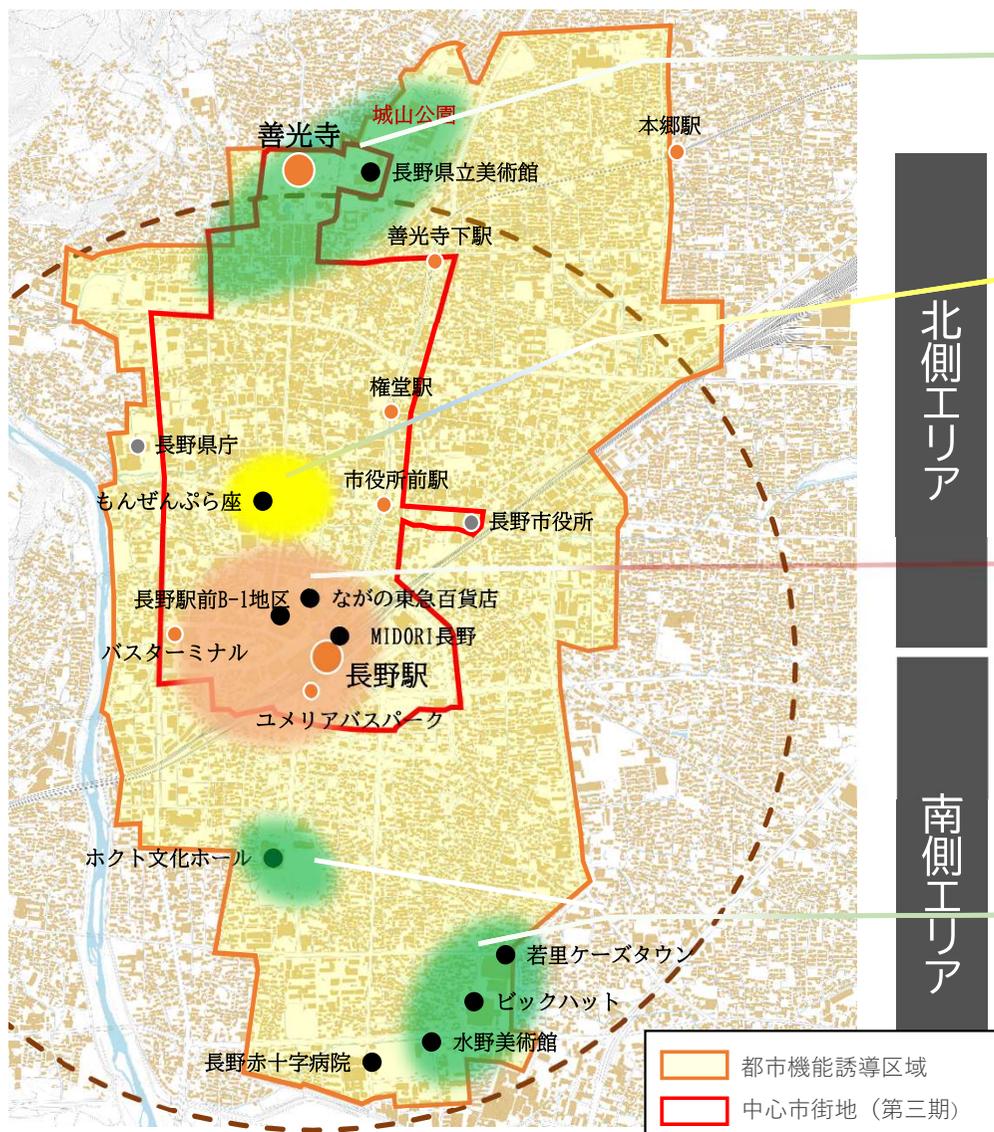
【研究の視点】

- ・若者や女性から選ばれるまち
- ・外国人観光客への対応体制など国内外の様々な人たちが集まるまち
- ・オリンピック開催都市である「長野市」ならではの強みを活かしたまち
- ・民間の力を引き出し、新たな需要を喚起させるまち

【研究対象エリア】

長野駅を中心とした都市形成や利用実態を考慮し、概ね2 km圏内のうち、長野駅から善光寺周辺までの北側エリアと長野駅からビッグハット周辺までの南側エリアに関する議論を行うもの

- ▶北側エリア：善光寺表参道を中心とした賑わいのあるまちづくり
- ▶南側エリア：長野駅東口や“多目的アリーナ”であるビッグハットのポテンシャルを活かしたまちづくり



善光寺門前・城山エリア ～歴史文化・憩い～

- ・国内外から多くの来訪者が日本最古といわれる御仏を祀る善光寺を訪れる。
- ・善光寺の東側にある 城山公園は「文化と芸術と交流の杜」をコンセプトに50年先を見据えた再整備を順次進めている。

新田町交差点エリア ～市民活動・交流～

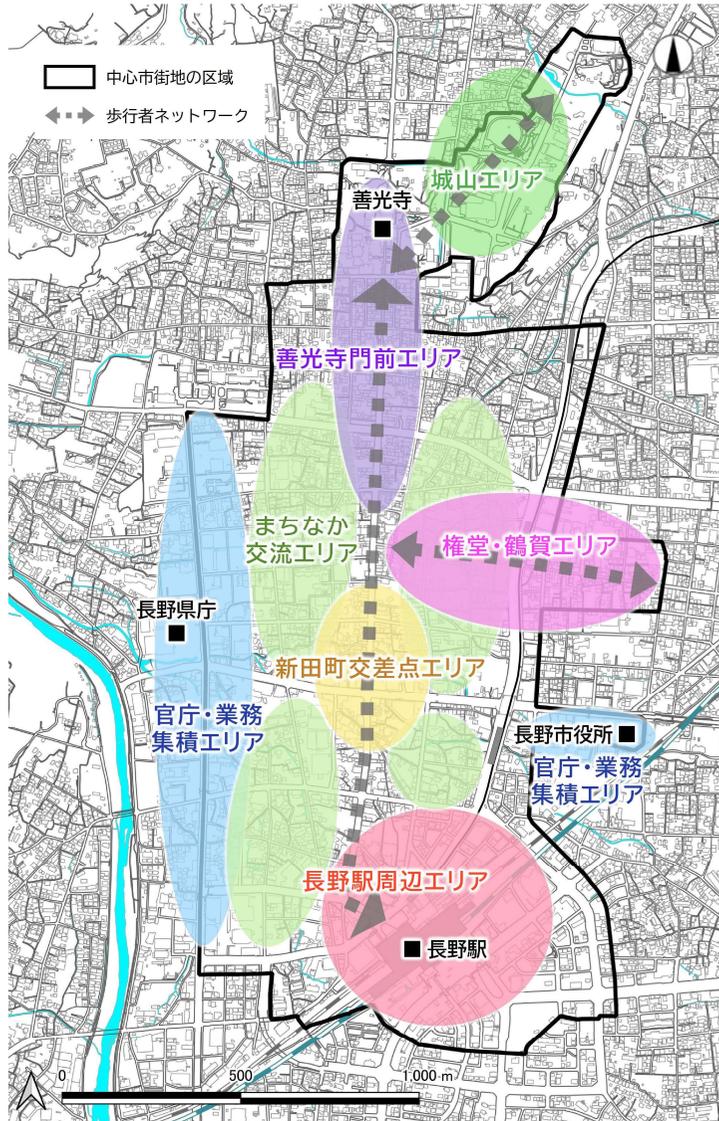
- ・長野駅と善光寺のほぼ中間に位置している。
- ・もんぜんぷら座や生涯学習センターなど、市民活動や交流の場としての機能が集積している。
- ・長野駅と市内各所をつなぐバス路線の多くは、このエリアを經由している。

長野駅周辺エリア ～交通結節・経済活動の中心地～

- ・北陸新幹線（長野経由）が必ず発着し、JR在来線、しなの鉄道、長野電鉄や周辺観光地（白馬・志賀・戸隠等）を結ぶ 路線バスの発着点
- ・多くの企業が事務所を構えているほか、飲食や宿泊を提供する施設が集積し、経済活動が盛んなエリア

若里エリア ～芸術・スポーツ（音楽・スポーツなど）～

- ・ビッグハットは、興行（コンサート・イベントなど）に適した立地だが、公益性の高いイベントを優先している。
- ・現在、ビッグハットのあり方の検討を進めている。



● エリアの名称
 ・ エリアの役割
 《エリアの将来像》

- **城山エリア**
 ・ 文化・芸術に触れ、憩いと交流を育む地域
 《文化芸術と緑が織りなす 憩いと交流の丘》
- **善光寺門前エリア**
 ・ 門前町の歴史的・文化的魅力を発信し、多くの来訪者を迎え入れる地域
 《千年の時を超え 伝統と文化が息づく善光寺門前》
- **権堂・鶴賀エリア**
 ・ 門前の暮らしを支えるとともに、多様で魅力的なサービスを提供する地域
 《日々の暮らしと多様な文化が交錯し 人々を惹きつける文化創造エリア》
- **新田町交差点エリア**
 ・ 市民活動と情報発信により中心市街地の結節点となる地域
 《伝統と未来が交差する 多世代交流の拠点となるエリア》
- **長野駅周辺エリア**
 ・ 多様な都市機能の集積により魅力と賑わいを生み出すまちの玄関口
 《長野の歴史文化と未来をつなぎ 世界に魅力を発信する県都の玄関口》
- **まちなか交流エリア**
 ・ 人々の生活を支え、新たな価値を生み出す地域
 《まちと新たな感性が出会い 創造性を育むエリア》
- **官庁・業務集積エリア**
 ・ 行政や企業が様々なサービスを提供する地域
 《共創により未来の長野をデザインするエリア》

(第三期長野市中心市街地活性化基本計画)



・ユメリアバスパーク

長野駅東口ロータリーに隣接し、主に観光バスや貸切バスが乗降及び待機するための施設。長野駅東口は、近年のインバウンド需要の増加により混雑が生じている。

・東口公園

長野駅東口を出て徒歩5分ほどに位置する公園施設。長野市初となるPark-PFIを活用した便益施設があるほか、年間を通じて多くのイベントが開催されている。

・長野赤十字病院

地域の基幹病院。救命救急センター、地域基幹センターを備え、長野市を中心とした長野県北部医療圏約50万人の県民の医療を担う中核病院。現在、隣接する長野市所有の若里多目的広場（イベント用臨時駐車場への建て替えを計画中）。

・ビッグハット

長野冬季オリンピックでアイスホッケーのメイン会場として使用された大型多目的アリーナ。グリーンシーズンの稼働余力があり、コンサートを中心としたMICEによる収益最大化に向けた余地がある。

北側エリア

• 低未利用の土地・建物の有効活用

低未利用地や老朽化した建築物の更新の機会を活用しながら、都市機能の充実を図ることが必要

• 魅力ある商業環境の充実

子育て世帯や若者、インバウンドなど、来訪者のニーズに対応したサービスの提供が必要

• まちなか居住と交流の促進

まちなか居住を支える機能の充実に加え、多様な世代の交流の場や機会を提供していくことが必要

• 公共交通の利便性向上

公共交通の利便性向上など、まちなかにおける多様な移動手段の確保が必要

• まちなかの回遊を促す歩きたくなるまち

安心・快適に移動できる歩行者動線の確保など、人を中心とした快適な回遊・滞留空間の創出が必要

南側エリア

• エリア開発においては、賑わいの中心となるビッグハットを軸に長野駅からの導線や周辺環境の整備を行い、エリアの賑わいを創出し、エリア一体の活性化を図っていく必要がある。

• エリアの活性化を考えるにあたって、施設それぞれの価値向上を図っていく必要があるが、まずはエリアの中心となるビッグハットの価値向上、人を集めることの検討を行う必要がある。
(→スポーツ庁認定のスポーツコンプレックス事業においてビッグハットの利活用について検討中)